

宇和島市 人権に関する市民意識調査
(生徒用)

報告書

—概要版—

令和5年3月

宇和島市

目次

I 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査事項	1
3 調査方法等	1
4 グラフ・表の見方	2
II 調査結果	3
1 人権問題に関する意識や考え方について	3
(1) 人権問題に関する意識について	3
(2) 自分自身に対する評価について	4
2 こどもの人権問題について	5
(1) 子どもの人権問題について	5
(2) いじめについて	6
3 インターネット上の人権侵害について	9
(1) インターネットによる人権侵害について	9
4 高齢者の人権問題について	11
(1) 高齢者の人権問題に関する考え	11
5 女性の人権問題について	12
(1) 女性の人権問題に関する考え	12
6 部落差別に関する人権問題について	13
(1) 部落差別に関する人権問題を初めて知った時期	13
(2) 部落差別を初めて知ったきっかけ	14
(3) 解決策に関する考えについて	15
7 障がいのある人の人権問題について	17
(1) 障がいのある人の人権問題に関する考え	17
8 外国人の人権問題について	18
(1) 外国人の人権問題に関する考え	18
9 感染症患者など（HIV、ハンセン病など）の人権問題について	19
(1) 感染症患者など（HIV、ハンセン病など）の人権問題に関する考え	19
10 新型コロナウイルス感染症について	20
(1) 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について	20
11 性的マイノリティについて	21
(1) LGBTQ や性的マイノリティに関する問題について	21
(2) 性的マイノリティの人権を守るために必要なこと	22
12 災害時の人権について	23
(1) 災害時の人権に配慮することについて	23
III 回答者の属性	24
1 あなた自身のことについて	24

- (1) あなたの性別は 2 4
- (2) あなたの学年は 2 4
- (3) あなたのお住いの地域は 2 4

I 調査概要

1 調査の目的

宇和島市では、お互いの人権が尊重される社会づくりをめざし、あらゆる差別や偏見を解消するために、さまざまな取組を進めています。本調査は、本市の中学・高校に通う生徒の皆さんが、日ごろ感じていることを今後の人権施策に役立てるために実施しました。

2 調査事項

- 人権問題に関する意識や考え方について
- 子どもの人権問題について
- インターネット上の人権問題について
- 高齢者の人権問題について
- 女性の人権問題について
- 部落差別に関する人権問題について
- 障がいのある人の人権問題について
- 外国人の人権問題について
- 感染症等（HIV、ハンセン病など）の人権問題について
- 性的マイノリティについて

3 調査方法等

調査先	学生
調査時期	令和4年12月
配布数	500
配布方法	学校配布回収
回収数	461
回収率	92.2%

4 グラフ・表の見方

■報告書の見方

- 今回の調査項目では、以前に実施した設問内容に対して、逆説的な聞き方をしている設問があります。よって、前回調査と比べて、集計結果が大きく異なる設問があります。
- 回答結果の割合「%」は、回答者数（ n ）に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答者数（ n ）に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、「%」合計が100%を超える場合があります。
- グラフ及び表中の n （number of case）は、集計対象者総数です。

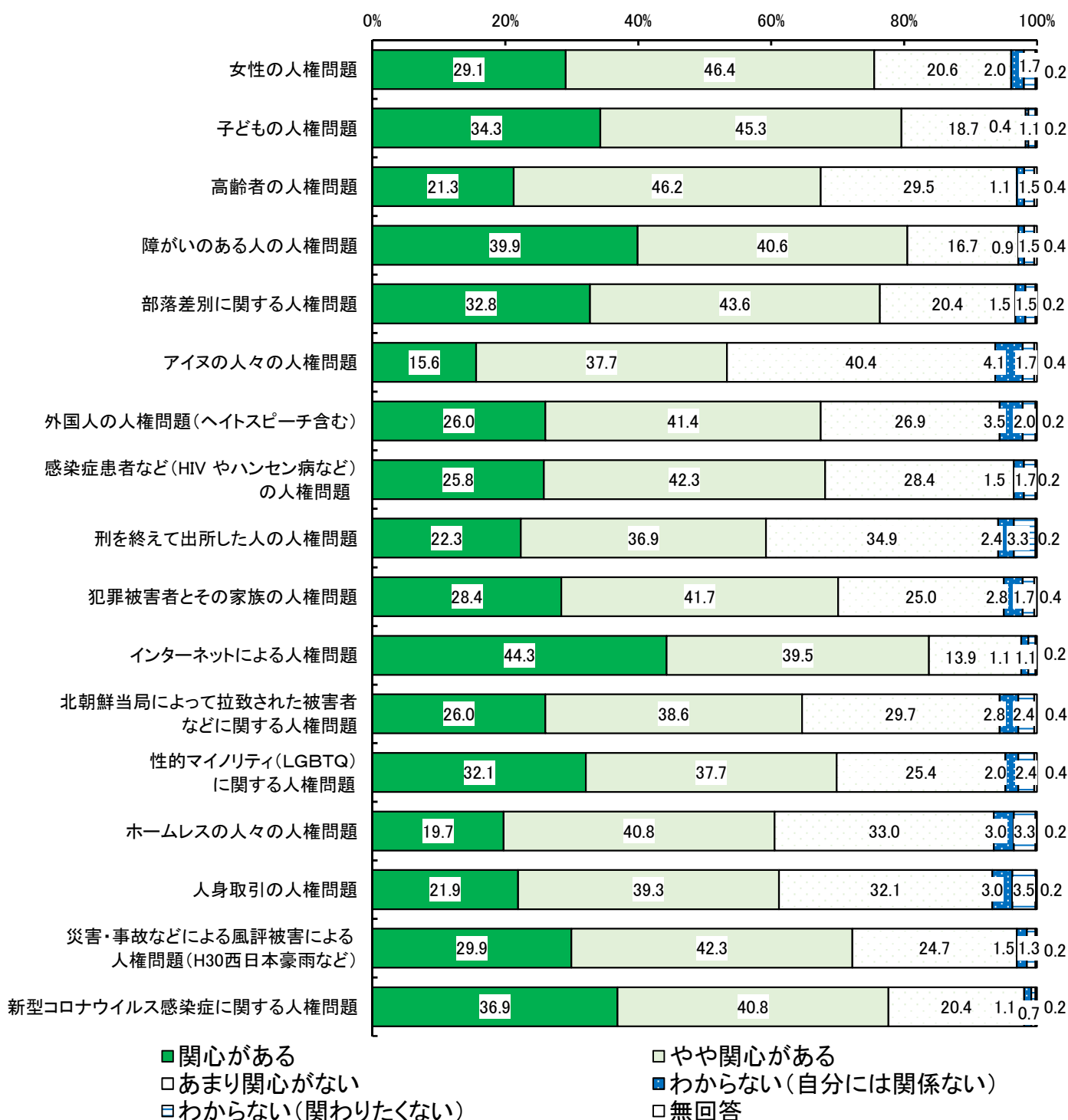
II 調査結果

I 人権問題に関する意識や考え方について

(1) 人権問題に関する意識について

問1 人権問題に関する次のア～チについて、関心があるかないかあなたのお考えに最も近いのはどれですか。(〇は項目ごとに1つずつ)

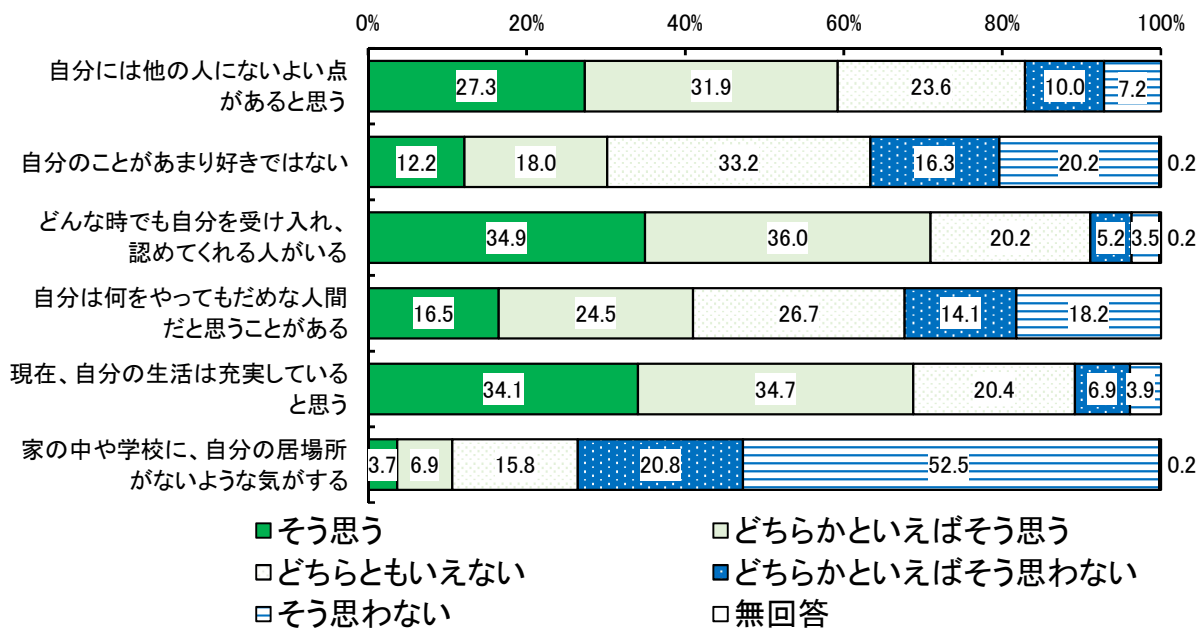
人権問題に関する考えについてたずねたところ、「関心がある」項目は『インターネットによる人権問題』で最も多くなっています。そのほかに関心が高いのは、『障がいのある人の人権問題』『新型コロナウイルス感染症に関する人権問題』『子どもの人権問題』『部落差別に関する人権問題』などとなっています。



(2) 自分自身に対する評価について

問2 あなたが、自分自身をどのように思っているかを、ありのままお答えください。
(○は項目ごとに1つずつ)

自分自身をどのように思っているかについて、「そう思う」や「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合をみると、『どんな時でも自分を受け入れ、認めてくれる人がいる』(70.9%)、『現在、自分の生活は充実していると思う』(68.8%)、『自分には他の人にはないよい点があると思う』(59.2%)が多くなっており、自己肯定や生活の充実を感じている人が多い結果となっています。また、『家の中や学校に、自分の居場所がないような気がする』については、「そう思わない」と回答した割合が52.5%と過半数を占めています。

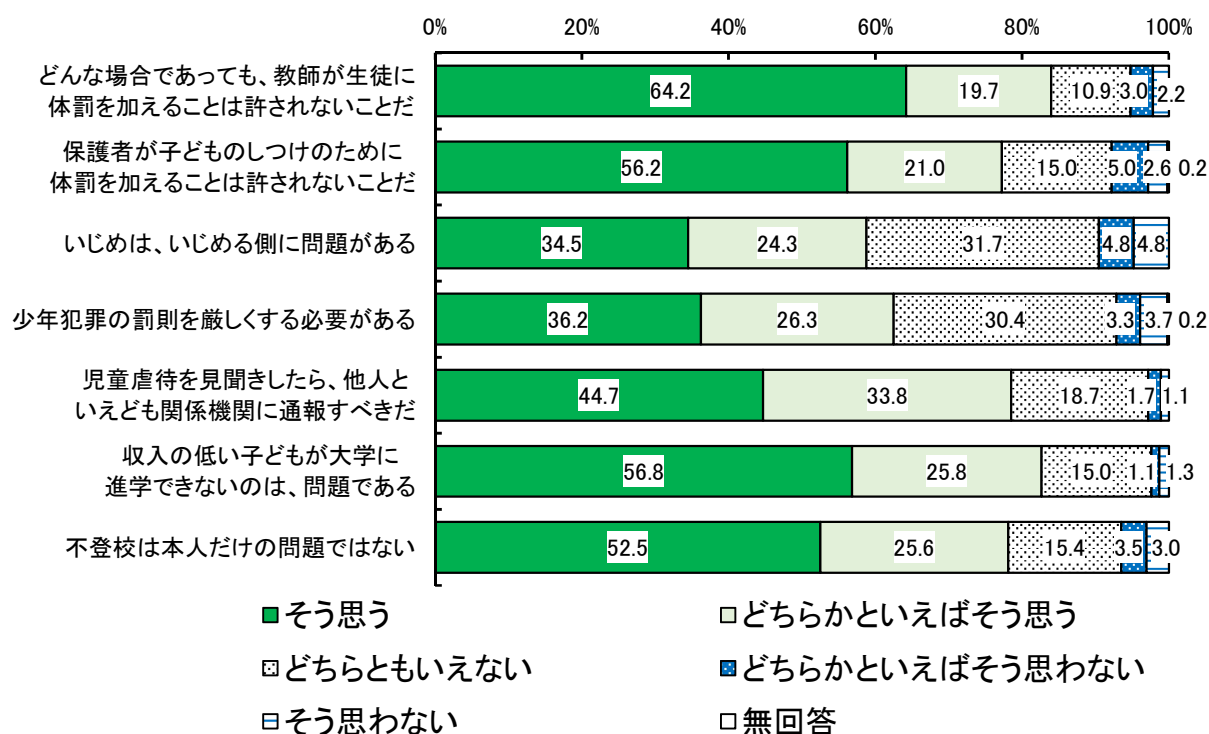


2 子どもの人権問題について

(1) 子どもの人権問題について

問3 子どもの人権に関する次のような意見について、あなたはどのように思いますか。(〇は項目ごとに1つずつ)

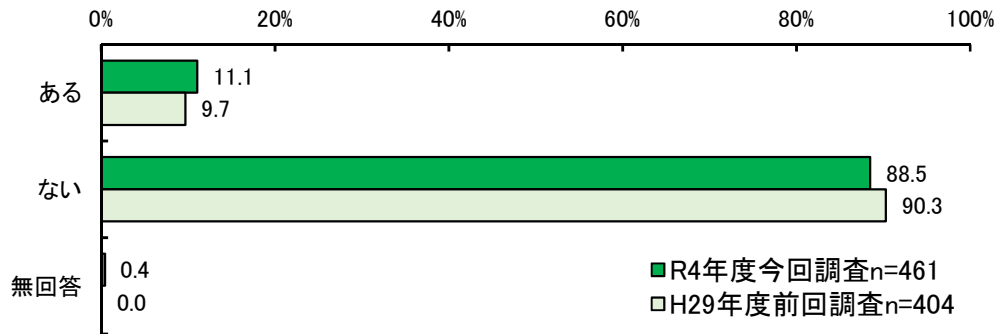
子どもの人権に関する意見について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合をみると、『どんな場合であっても、教師が生徒に体罰を加えることは許されないことだ』(83.9%)、『収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、問題である』(82.6%)が多くなっています。



(2) いじめについて

問4 あなたは、「いじめ」をしたことがありますか。(〇は1つ)

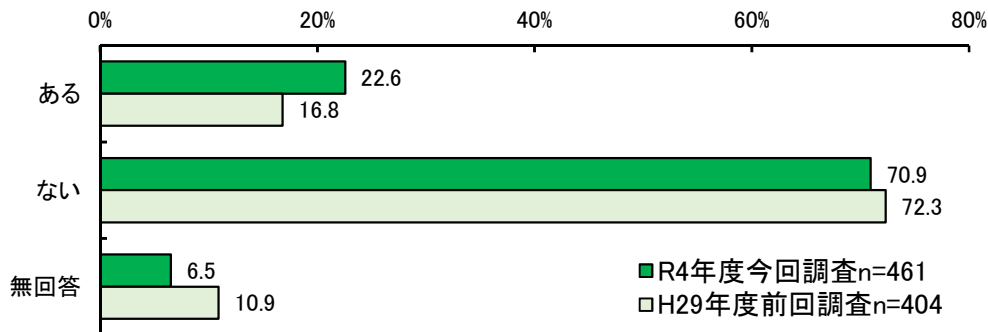
いじめをしたことがあるかをたずねたところ、「ない」が88.5%と大半を占めています。また、前回調査と比べると、「ない」が1.8ポイント減少しています。



問5 あなたはいじめられたことがありますか。(〇は1つ)

いじめられたことがあるかをたずねたところ、「ない」が70.9%、「ある」が22.6%となっています。

前回調査と比べると、「ある」が5.8ポイント増加しています。いじめの実態の把握と解決に向けての取組が求められます。

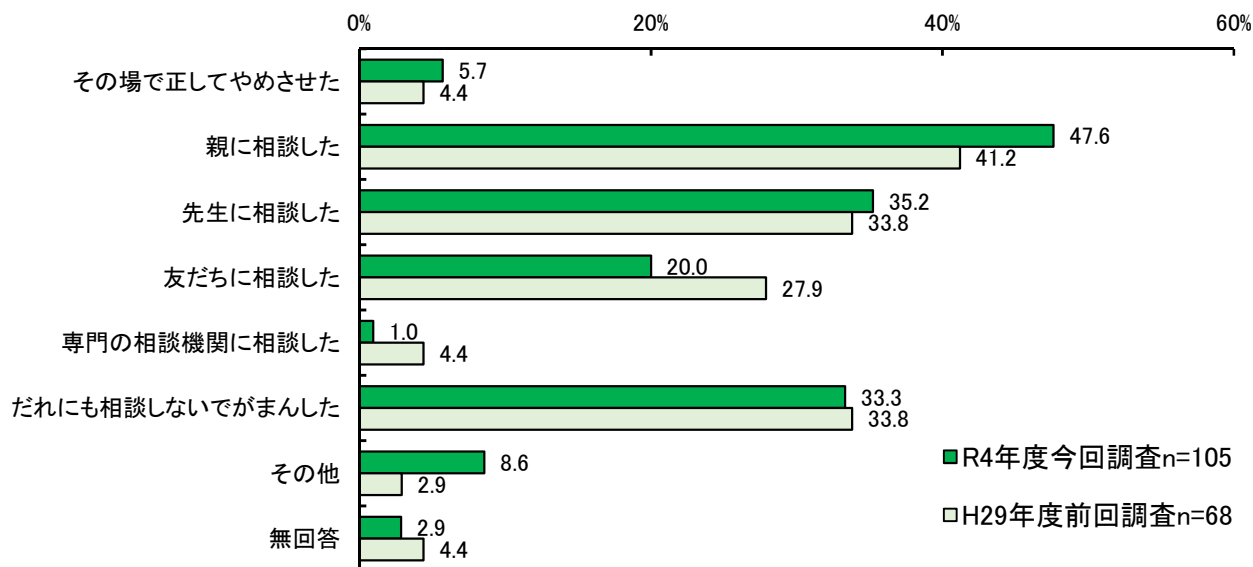


問5で「1 ある」と答えた方にお聞きします。

問5-1 いじめられたとき、どのように対処しましたか。(〇はいくつでも)

いじめられたときの対処法をたずねたところ、「親に相談した」(47.6%)が最も多く、次いで「先生に相談した」(35.2%)、「だれにも相談しないでがまんした」(33.3%)となっています。

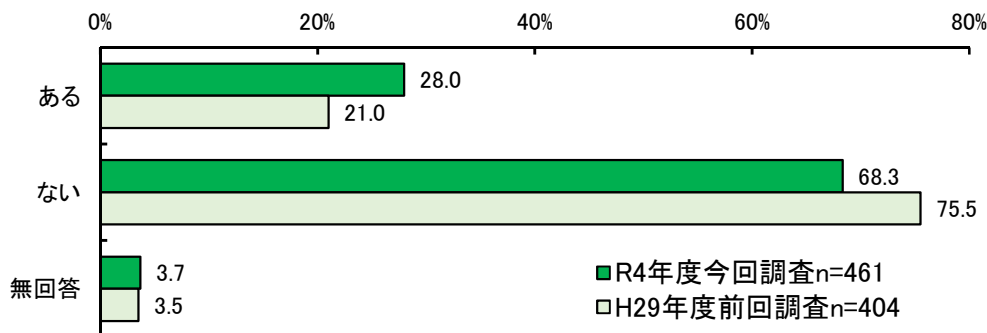
前回調査と比べると、「親に相談した」が6.4ポイント増加しています。専門機関との連携を強化することや相談機関の周知など対策の余地があります。



問6 あなたは、いじめを見たことがありますか。(〇は1つ)

いじめを見たことがあるかをたずねたところ、「ない」が68.3%、「ある」が28.0%となっています。

前回調査と比べると、「ない」が7.2ポイント減少し、「ある」が7.0ポイント増加しています。潜在的ないじめの実態把握などさらなる対応が求められます。

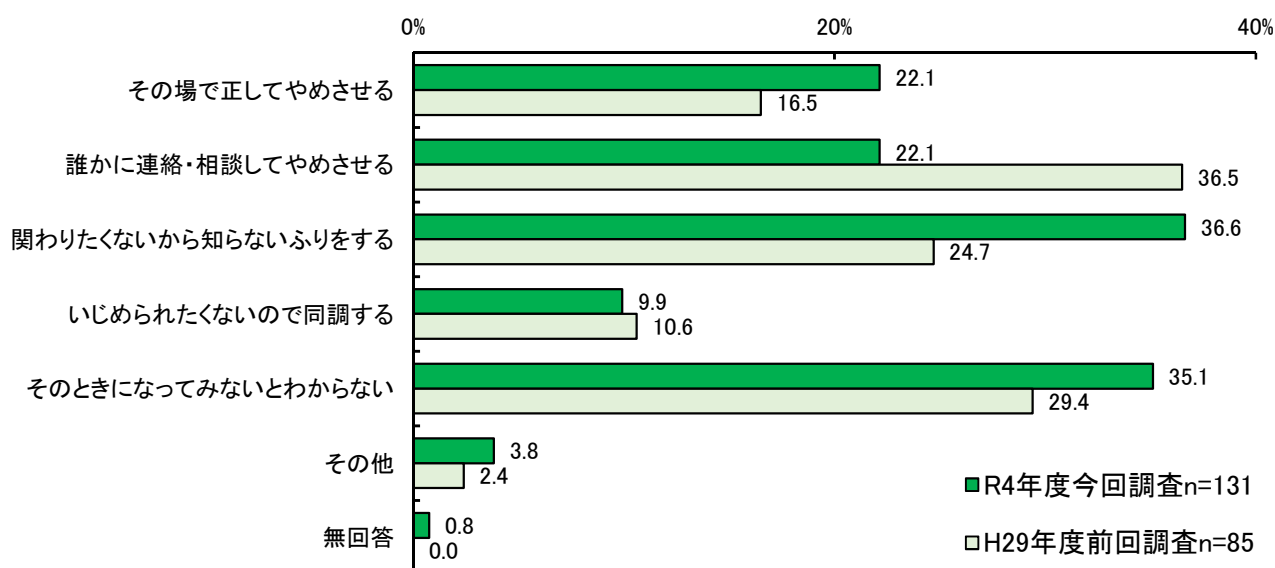


【問6で「1 ある」と答えた方にお聞きします。】

問6—1 いじめを見たとき、どのように対処しましたか。(〇はいくつでも)

いじめを見た時の対処法についてたずねたところ、「関わりたくないから知らないふりをする」(36.6%)が最も多く、次いで「そのときになってみないとわからない」(35.1%)となっています。

前回調査と比べると、「誰かに連絡・相談してやめさせる」が14.4ポイント減少し、「関わりたくないから知らないふりをする」が11.9ポイント増加しています。いじめに対する問題意識の啓発やいじめを目撃したときの行動力を促す環境づくりなどが必要となってきます。



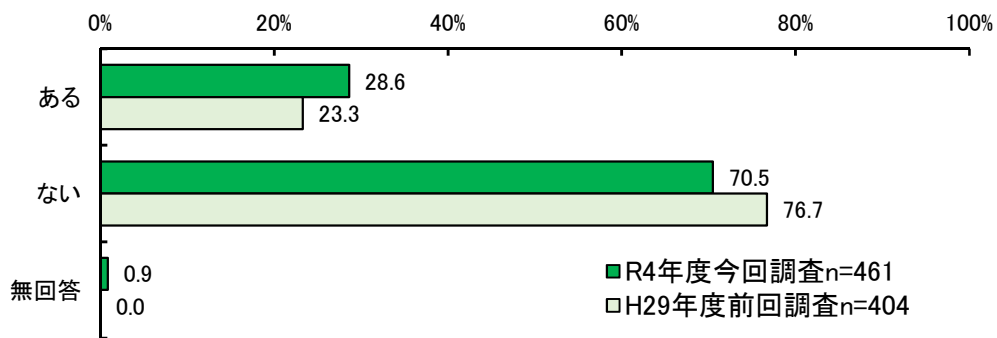
3 インターネット上の人権侵害について

(1) インターネットによる人権侵害について

問7 インターネットにより人権がおかされることについての質問です。あなたの身の回りで、インターネットを使って、人権がおかされた事案を見た（聞いた）ことがありますか。（〇は1つ）

インターネットを使って、人権がおかされた事案を見た（聞いた）ことがあるかをたずねたところ、「ある」が28.6%、「ない」が70.5%となっています。

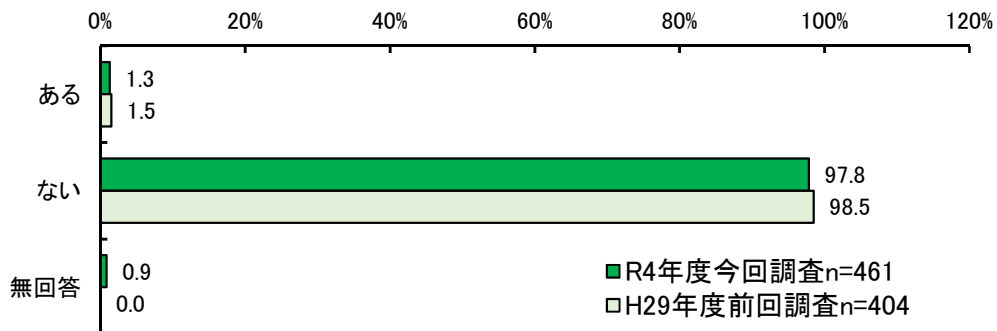
前回調査と比べると、「ある」が5.3ポイント増加しています。



問8 インターネットを使って、他の人の人権をおかしたことがありますか。（〇は1つ）

インターネットを使って、他の人の人権をおかしたことがあるかをたずねたところ、「ない」が97.8%と大半を占めています。

前回調査と比べても大きな差はありません。



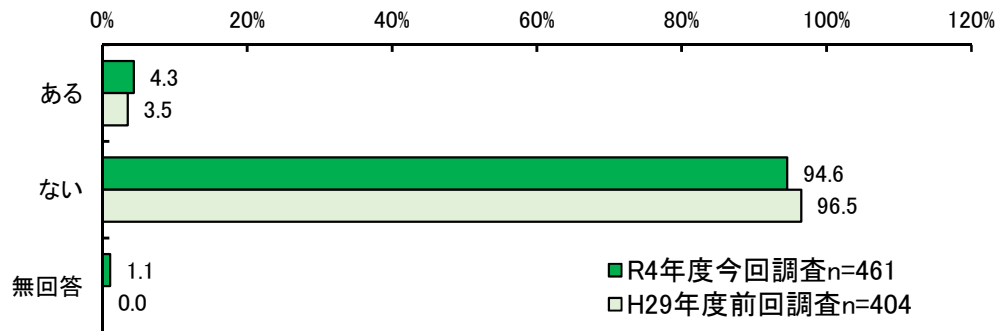
問9 インターネットを使って、自分の人権がおかされたことがありますか。

(○は1つ)

反対に、インターネットを使って、自分の人権がおかされたことがあるかをたずねたところ、「ある」が4.3%、「ない」が94.6%となっています。

前回調査と比べると、「ない」が1.9ポイント減少しています。

インターネットを利用しての人権侵害に関する教育を推進し、相談機関を周知するなど、今後の対策が求められます。

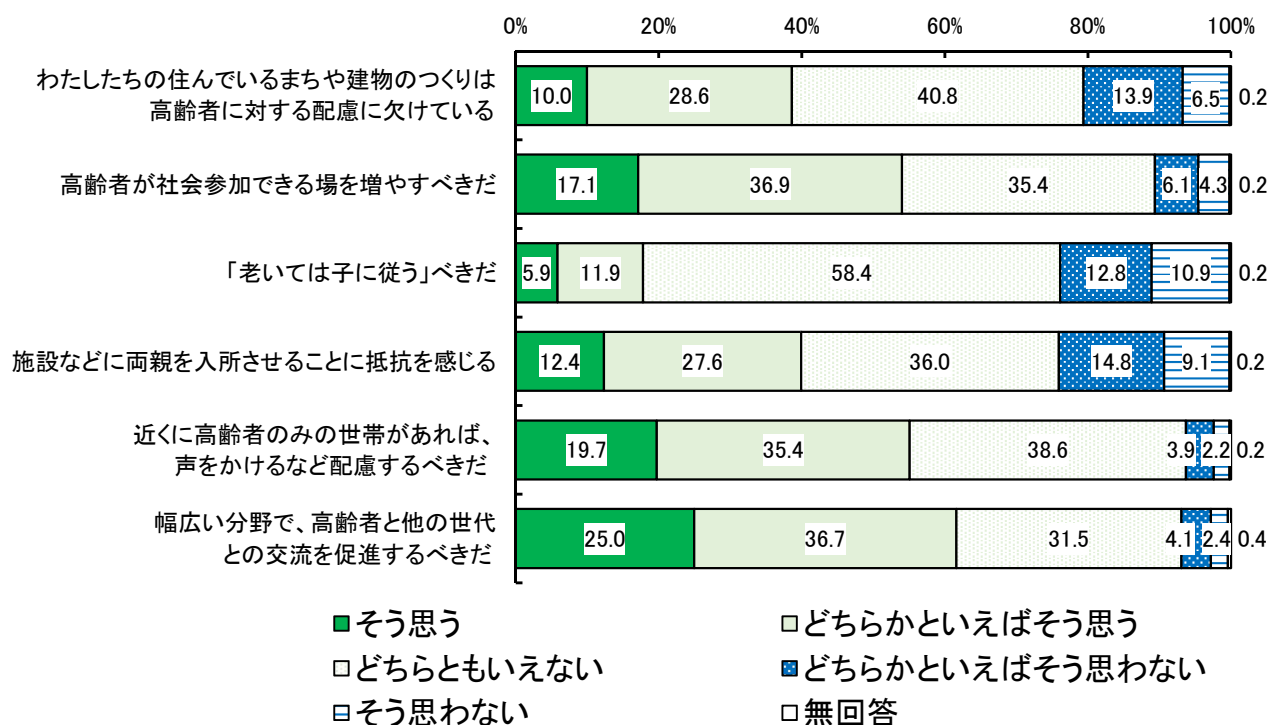


4 高齢者の人権問題について

(1) 高齢者の人権問題に関する考え

問 10 高齢者の人権に関する次のような意見について、あなたはどのように思いますか。(〇は項目ごとに1つずつ)

高齢者の人権問題について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合をみると、「幅広い分野で、高齢者との交流を促進すべきだ」(61.7%)、「近くに高齢者のみの世帯があれば、声をかけるなど配慮すべきだ」(55.1%)、「高齢者が社会参加できる場を増やすべきだ」(54.0%)が多くなっています。高齢者のみの世帯への声掛けや、他の世代との交流、社会参加できる場を増やすことなどについて、肯定的な意見が多い結果となっています。

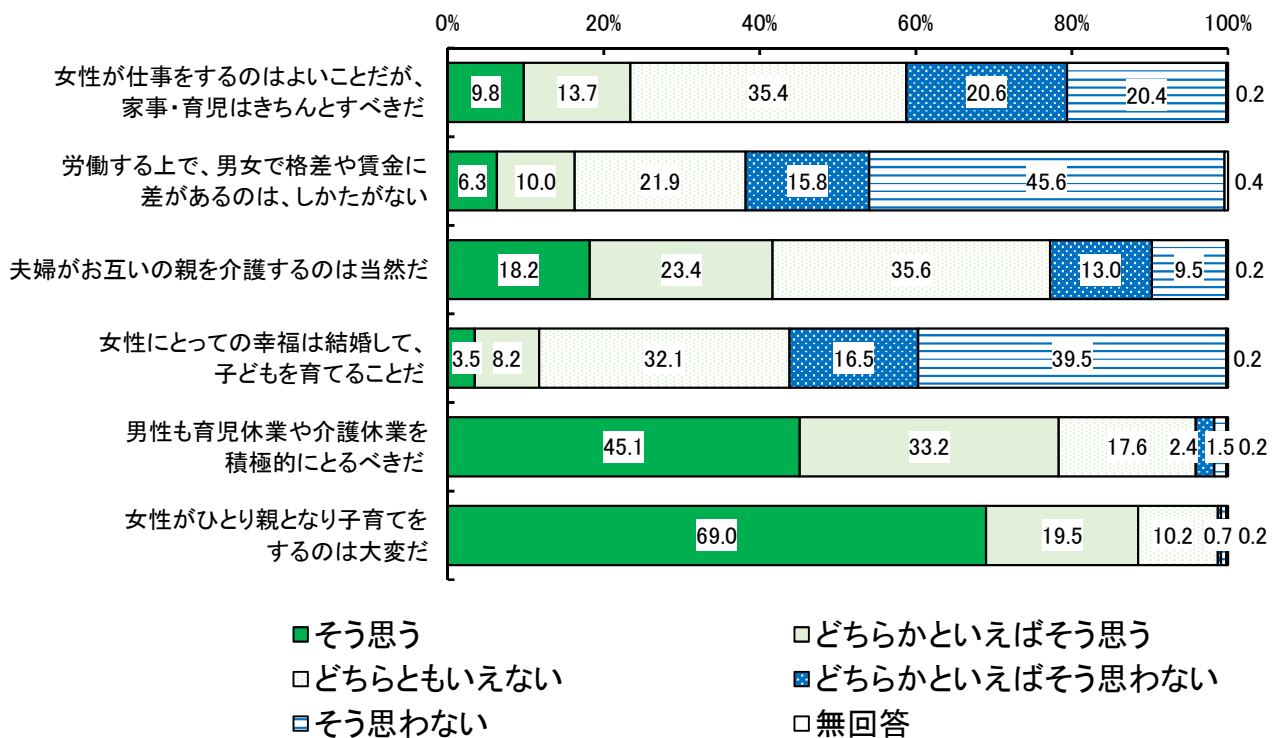


5 女性の人権問題について

(1) 女性の人権問題に関する考え

問 11 女性の人権に関する次のような意見について、あなたはどのように思いますか。
(○は項目ごとに1つずつ)

女性の人権問題について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合をみると、「女性がひとり親となり子育てをするのは大変だ」が88.5%で最も多く、次いで「男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきだ」が78.3%、「夫婦がお互いの親を介護するのは当然だ」が41.6%となっています。子育てや親の介護などを女性一人で抱えることなく、男性も分担する姿勢が求められている結果となっています。



6 部落差別に関する人権問題について

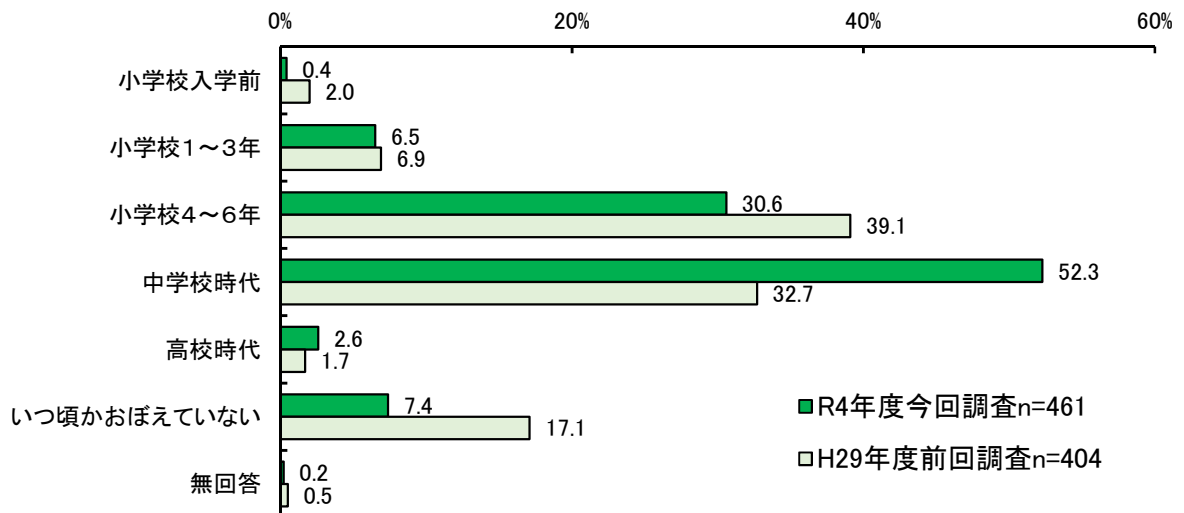
(1) 部落差別に関する人権問題を初めて知った時期

問12 あなたが部落差別に関する人権問題について、初めて知ったのはいつごろですか。(〇は1つ)

同和問題について初めて知ったのはいつごろかをたずねたところ、「中学校時代」が52.3%と半数を超えて最も多く、次いで「小学校 4～6年」が30.6%、となっています。

前回調査と比べてみると、「中学校時代」が19.6ポイント増加しています。学校教育の取組がうかがえます。

【前回調査との比較】

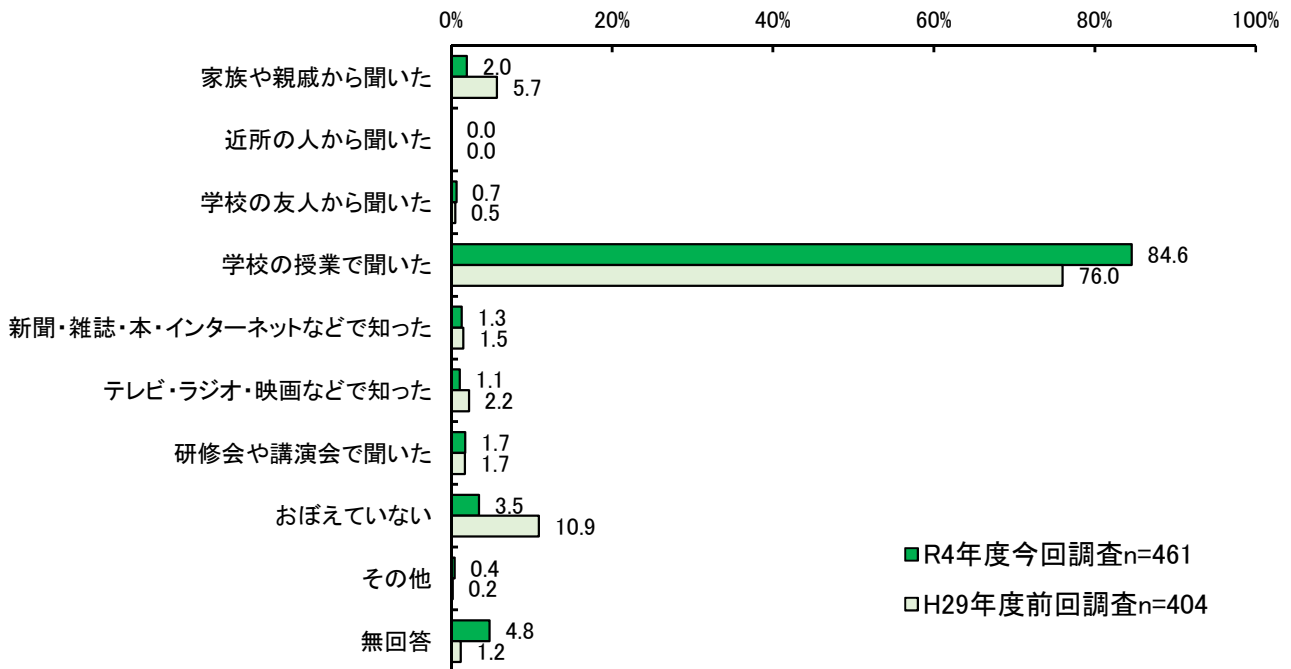


(2) 部落差別を初めて知ったきっかけ

問 13 それをどのようにして知りましたか。(〇は1つ)

どのようにして部落差別を知ったかをたずねたところ、「学校の授業で聞いた」が84.6%と突出しています。前問の初めて知った時期と一致し、学校教育を通じて部落差別を初めて知る人が多い結果となっています。

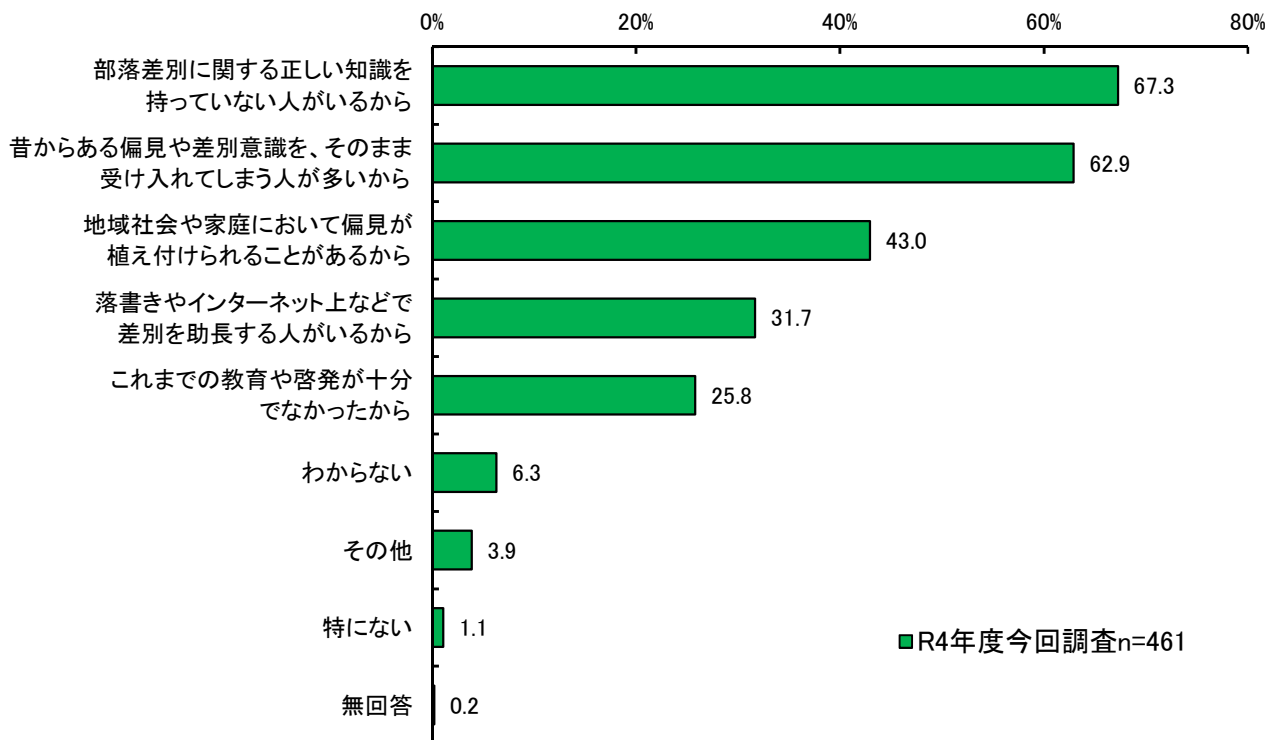
前回調査と比べると、「学校の授業で聞いた」が8.6ポイント増加しています。



(3) 解決策に関する考えについて

問 14 現在でも部落差別が残っているのは、どこに原因があると思いますか。
(〇はいくつでも)

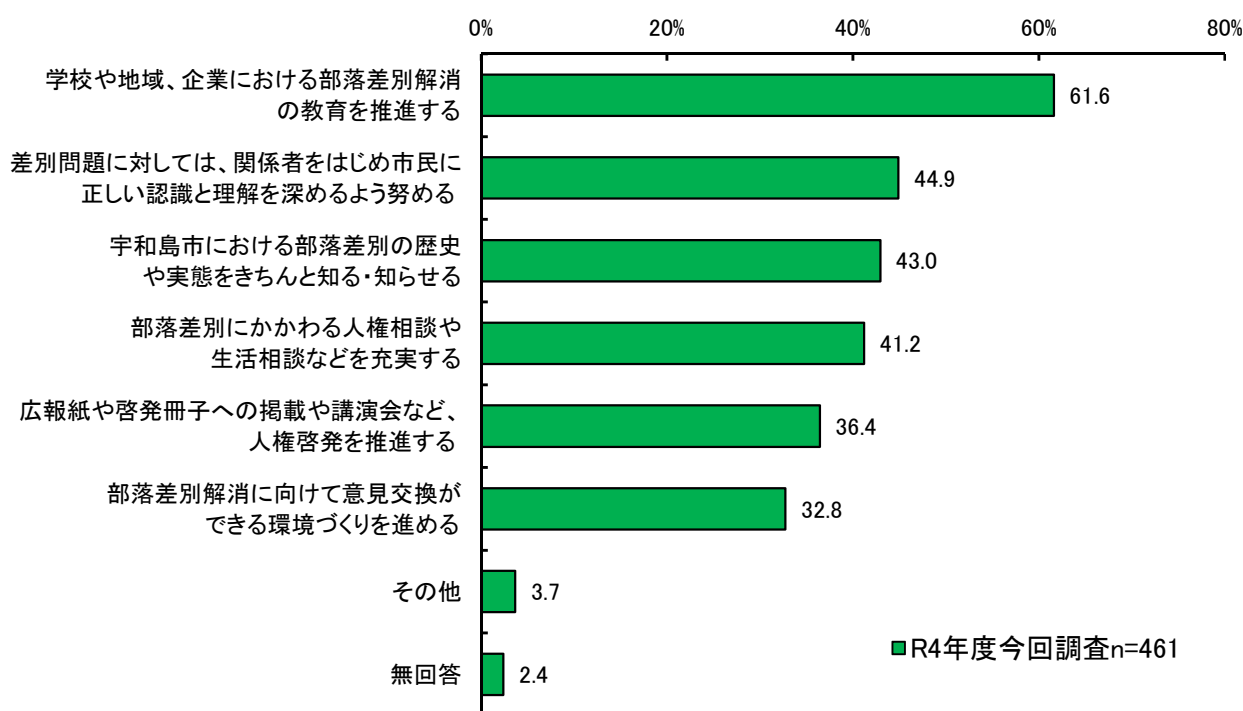
現在でも部落差別が残っているのは、どこに原因があるかについて、「部落差別に関する正しい知識を持っていない人がいるから」が67.3%と最も多く、次いで「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」が62.9%、「地域社会や家庭において偏見が植え付けられることがあるから」が43.0%となっています。更なる人権問題に関する啓発活動の取組が重要となります。



※R4年度今回調査の新選択肢
(全問)

問 15 あなたは、部落差別に関する人権問題を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

部落差別に関する人権問題を解決するための意見について、「学校や地域、企業における部落差別解消の教育を推進する」が61.6%と最も多く、次いで「差別問題に対しては、関係者をはじめ市民に正しい認識と理解を深めるよう努める」が44.9%、「宇和島市における部落差別の歴史や実態をきちんと知る・知らせる」が43.0%となっています。更なる学校教育での取組、地域の企業や団体へ向けて人権問題に関する啓発活動の取組が重要となります。



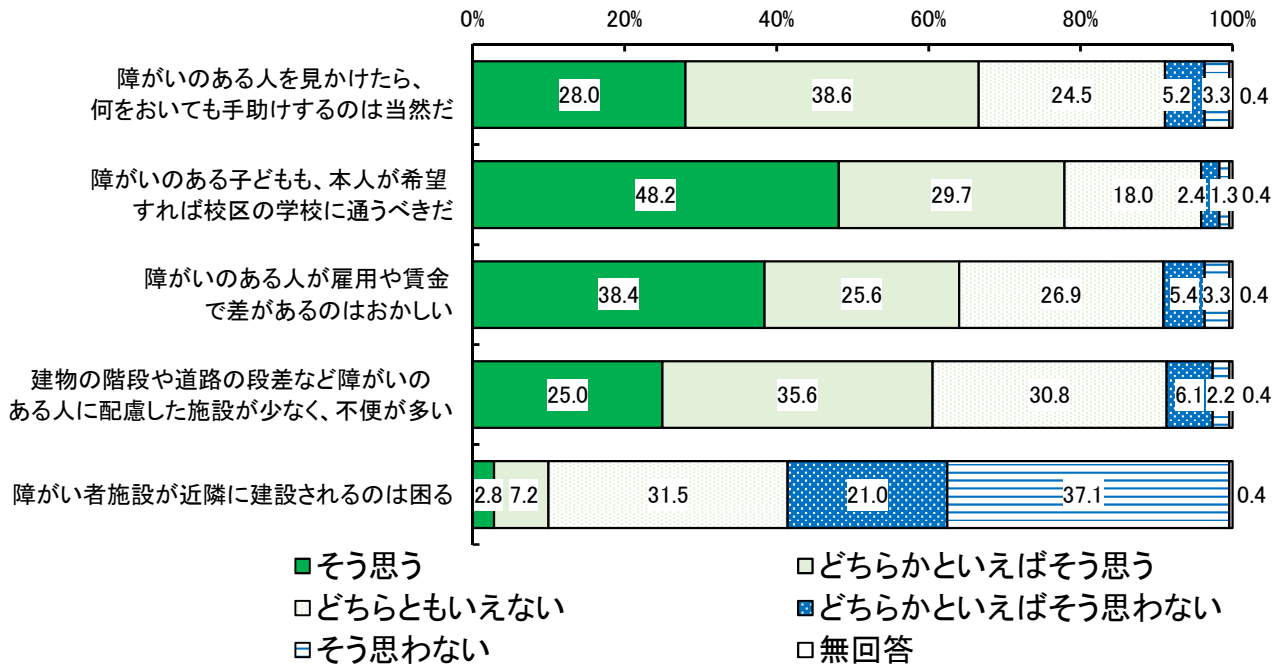
※R4年度今回調査の新選択肢
(全問)

7 障がいのある人の人権問題について

(1) 障がいのある人の人権問題に関する考え

問16 障がいのある人に関する次のような意見について、あなたはどのように思いますか。(〇は項目ごとに1つずつ)

障がいのある人の人権に関する意見について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合をみると、「障がいのある子どもも、本人が希望すれば校区の学校に通うべきだ」が77.9%と最も多く、次いで「障がいのある人を見かけたら、何をおいても手助けするのは当然だ」が66.6%、「障がいのある人が雇用や賃金で差があるのはおかしい」が64.0%などとなっています。障がいのある人の通学や雇用に関して、差別されることなく平等に権利が与えられるべきだとする意見や、障がいのある人に対して手助けする配慮が必要とする意見が多い結果となっています。



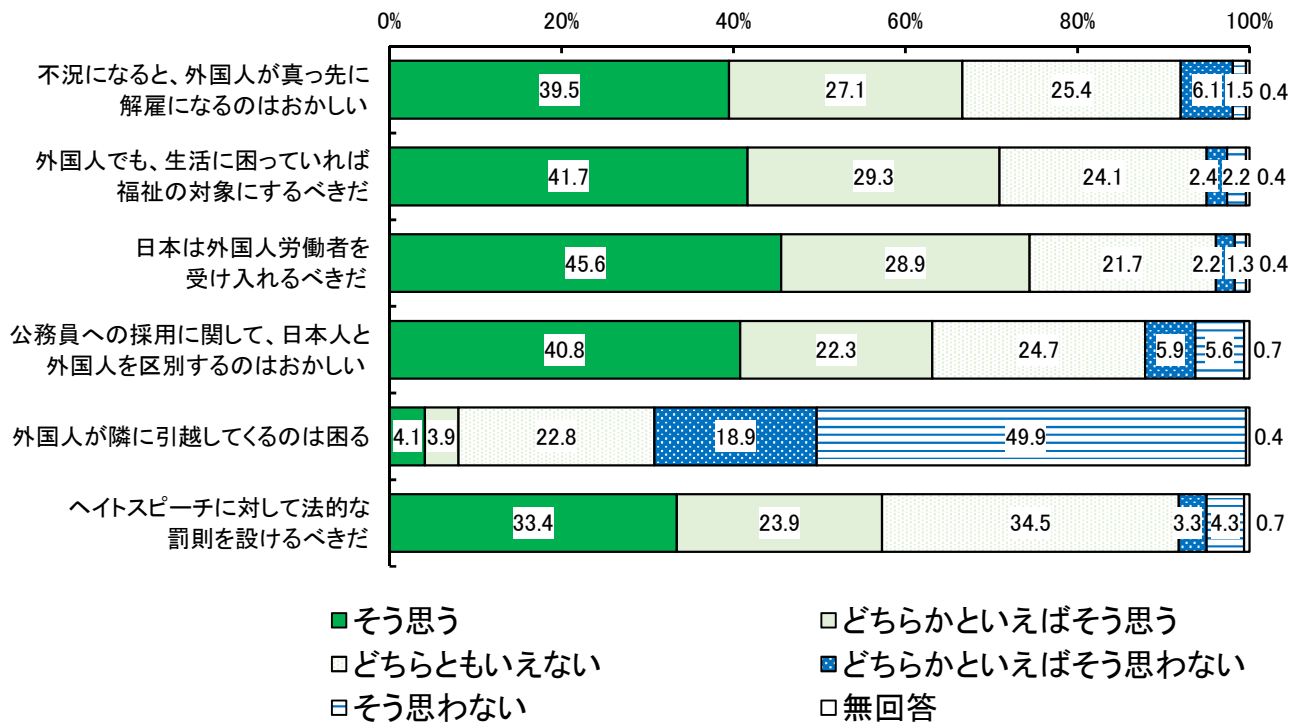
8 外国人の人権問題について

(1) 外国人の人権問題に関する考え

問 17 外国人の人権に関する次のような意見について、あなたはどのように思いますか。
(○は項目ごとに1つずつ)

外国人の人権に関する意見について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合をみると、「日本は外国人労働者を受け入れるべきだ」が74.5%と最も多く、次いで、「外国人でも、生活に困っていれば福祉の対象にするべきだ」が71.0%、「不況になると、外国人が真っ先に解雇になるのはおかしい」が66.6%などとなっています。

外国人を積極的に受け入れていく意見が多く、外国人労働者への配慮や外国人の生活困窮者に対する福祉の見直しが必要であるとする意見が多くなっています。

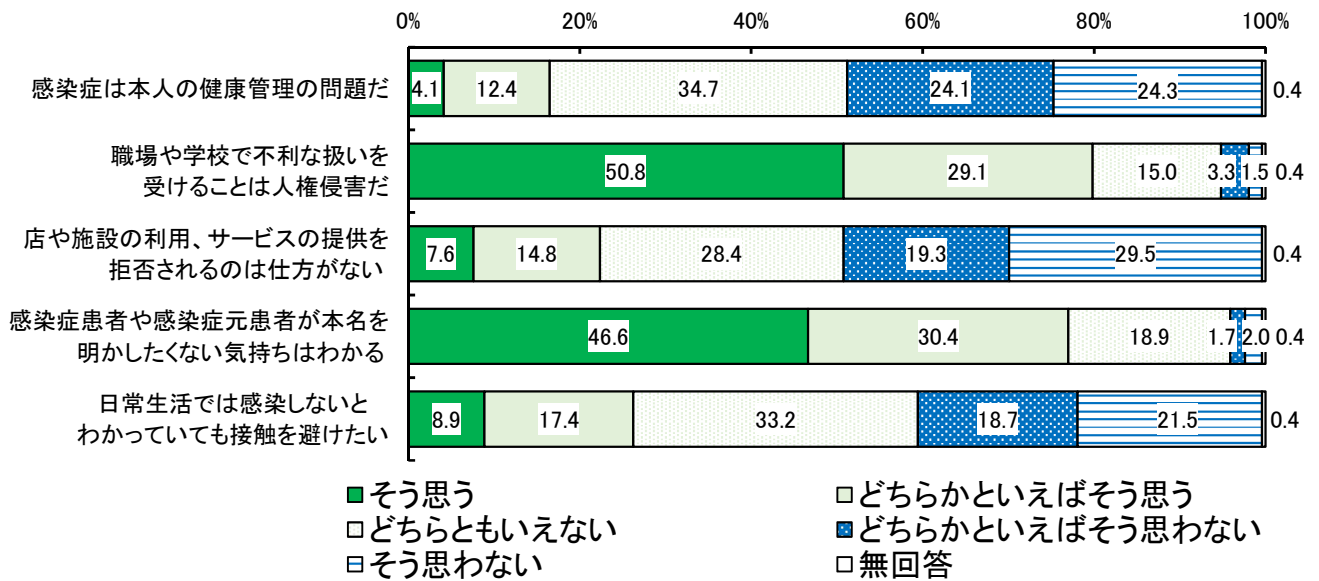


9 感染症患者など（HIV、ハンセン病など）の人権問題について

(1) 感染症患者など（HIV、ハンセン病など）の人権問題に関する考え

問 18 感染症患者など（HIV、ハンセン病など）の人権に関する次のような意見について、あなたはどのように思いますか。（〇は項目ごとに1つずつ）

感染症患者などの人権に関する意見について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合をみると、「職場や学校で不利な扱いを受けることは人権侵害だ」が79.9%と最も多く、次いで「感染症患者や感染症元患者が本名を明かしたくない気持ちはわかる」が77.0%などとなっています。

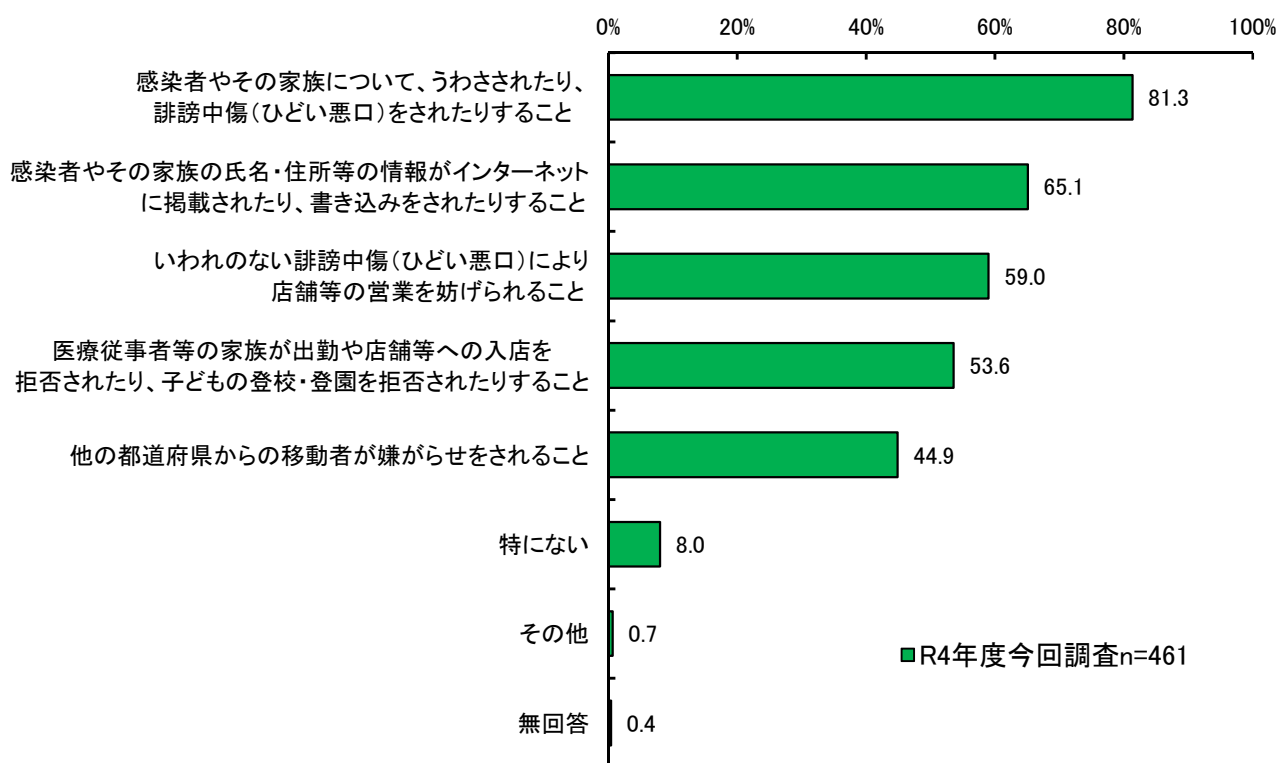


10 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について

問19 新型コロナウイルス感染症に関連して、人権が尊重されていないと感じるのはどのような状況に対してですか。(〇はいくつでも)

新型コロナウイルス感染症に関連して、人権が尊重されていないと感じることをたずねたところ、「感染者やその家族について、うわさされたり、誹謗中傷(ひどい悪口)をされたりすること」が81.3%で最も多く、次いで、「感染者やその家族の氏名・住所等の情報がインターネットに掲載されたり、書き込みをされたりすること」が65.1%、「いわれのない誹謗中傷(ひどい悪口)により店舗等の営業を妨げられること」が59.0%などとなっています。新型コロナウイルス感染症に関する理解不足による偏見や、誹謗中傷による営業妨害が問題であるとする意見が多くなっています。



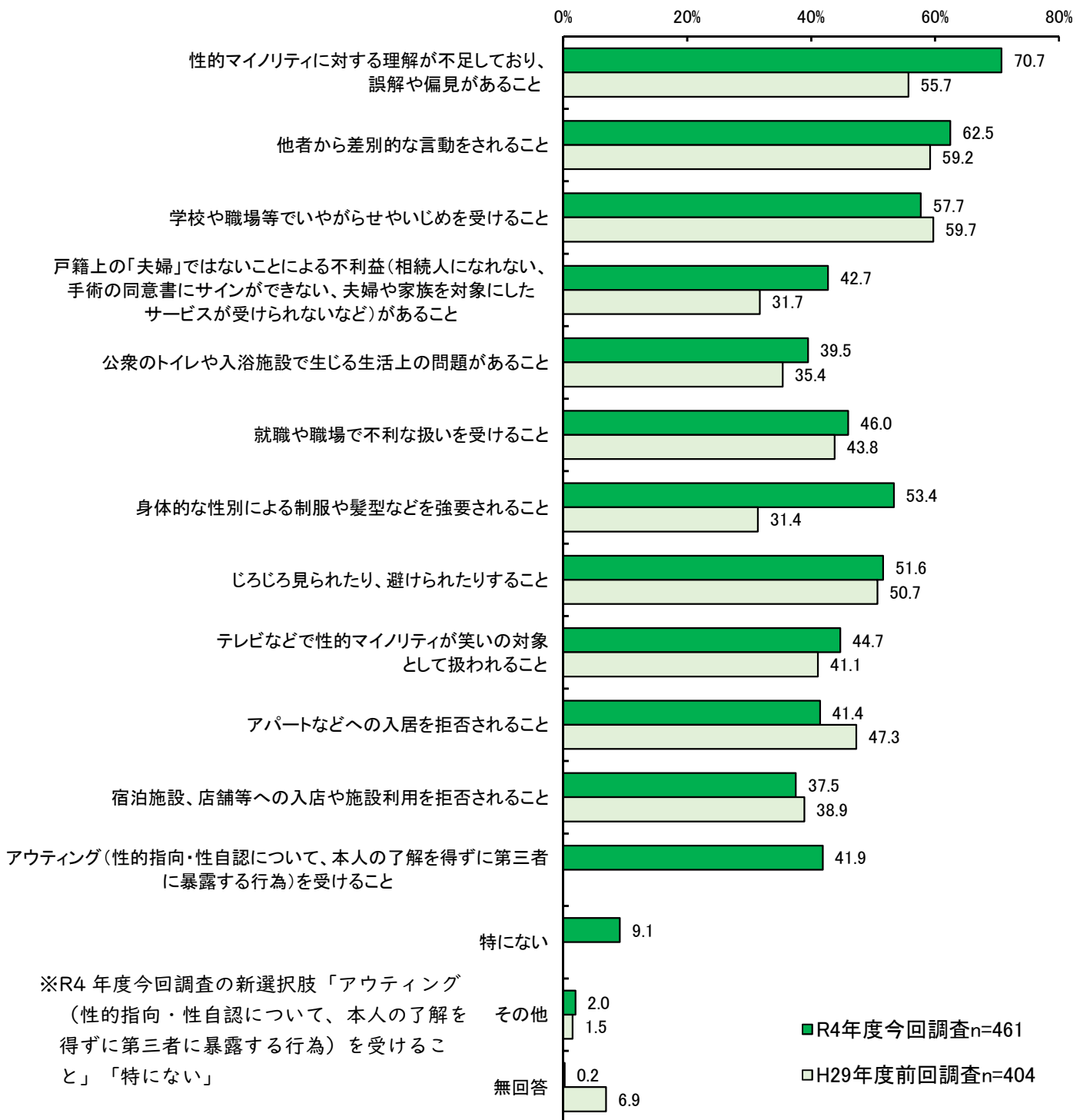
※R4年度今回調査の新選択肢
(全問)

11 性的マイノリティについて

(1) LGBTQ や性的マイノリティに関する問題について

問 20 LGBTQ などの性的マイノリティについて、あなたが問題があると思うのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

LGBTQ など性的マイノリティについて問題があると思うことをたずねたところ、「性的マイノリティに対する理解が不足しており、誤解や偏見があること」が70.7%で最も多く、次いで「他者から差別的な言動をされること」が62.5%、「学校や職場等でいやがらせやいじめを受けること」57.7%などとなっています。性的マイノリティに対する理解不足による偏見や、社会での差別やいじめを受けることが問題であるとする意見が多くなっています。

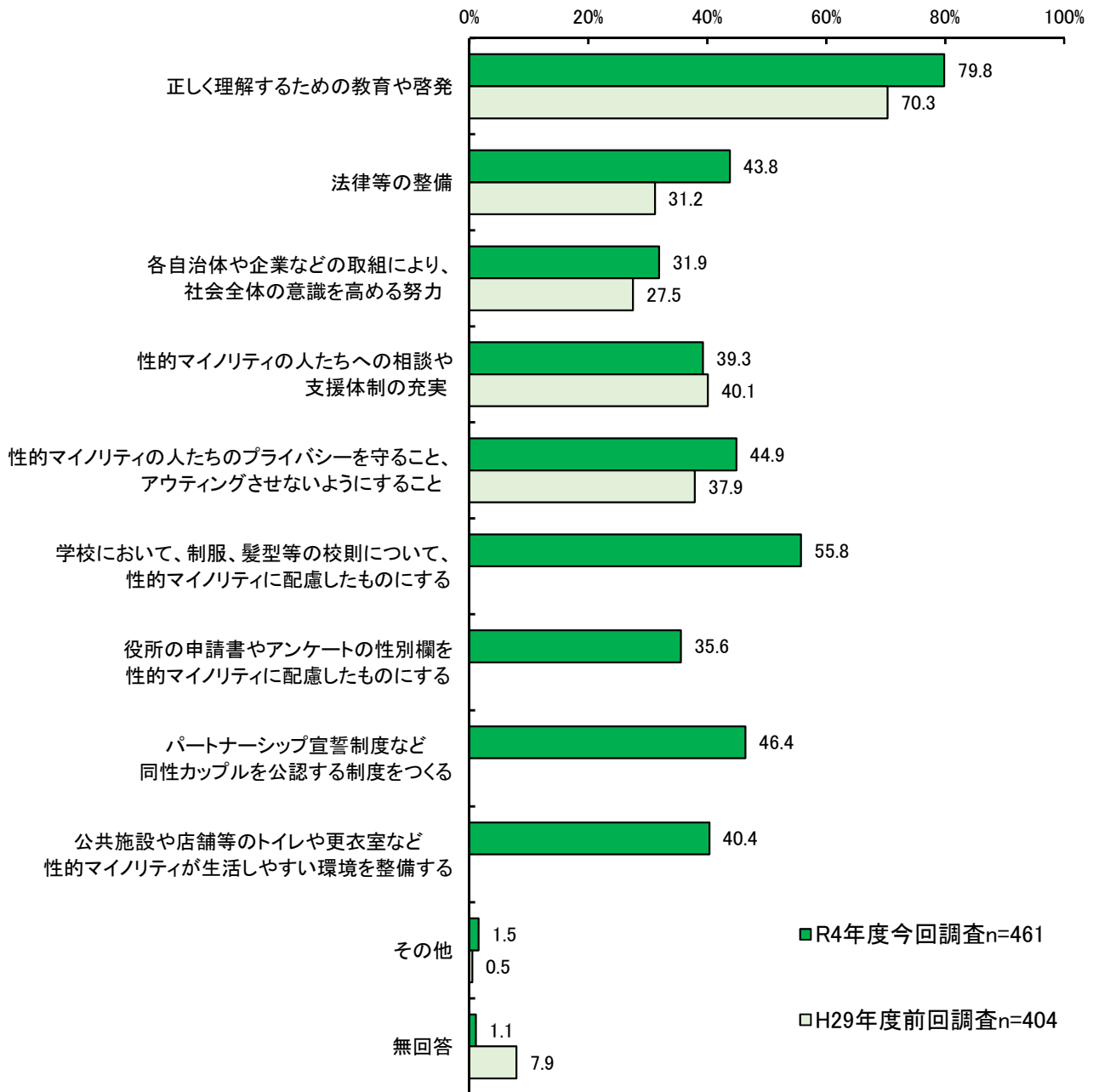


※R4 年度今回調査の新選択肢「アウトティング(性的指向・性自認について、本人の了解を得ずに第三者に暴露する行為)を受けること」「特になし」

(2) 性的マイノリティの人権を守るために必要なこと

問 21 性的マイノリティの人権を守るために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

性的マイノリティの人権を守るために、特に必要なことについてたずねたところ、「正しく理解するための教育や啓発」が79.8%で最も多く、次いで「学校において、制服、髪型等の校則について、性的マイノリティに配慮したものにする」が55.8%、「パートナーシップ宣誓制度など同性カップルを公認する制度をつくる」46.4%などとなっています。



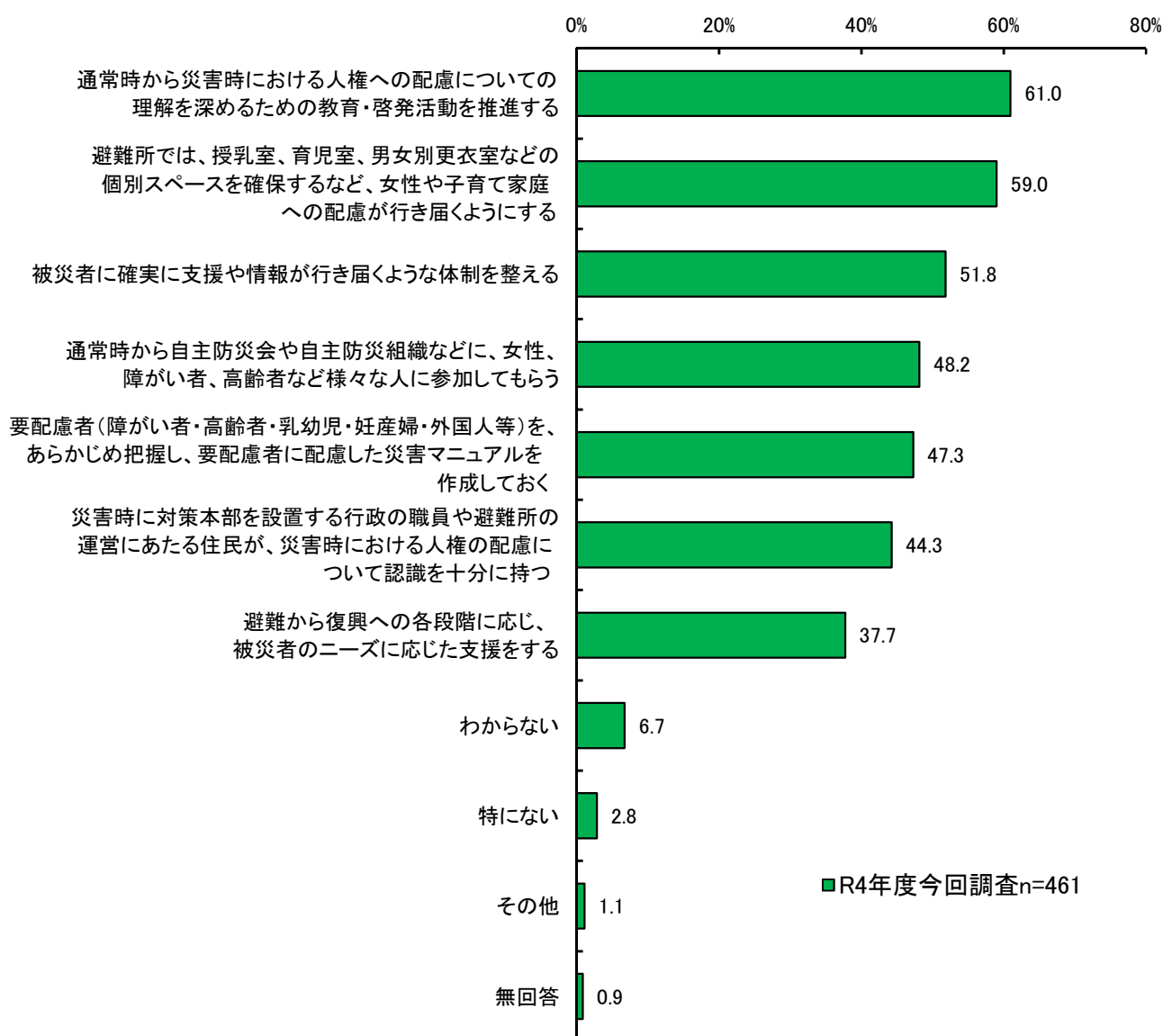
※R4年度今回調査の新選択肢「学校において、制服、髪型等の校則について、性的マイノリティに配慮したものにする」「役所の申請書やアンケートの性別欄を性的マイノリティに配慮したものにする」「パートナーシップ宣誓制度など同性カップルを公認する制度をつくる」「公共施設や店舗等のトイレや更衣室など性的マイノリティが生活しやすい環境を整備する」

12 災害時の人権について

(1) 災害時の人権に配慮することについて

問 22 地震など災害時において人権に配慮するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

地震など災害時において人権に配慮するために必要なことについてたずねたところ、「通常時から災害時における人権への配慮についての理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」が61.0%で最も多く、次いで「避難所では、授乳室、育児室、男女別更衣室などの個別スペースを確保するなど、女性や子育て家庭への配慮が行き届くようにする」が59.0%、「被災者に確実に支援や情報が行き届くような体制を整える」51.8%などとなっています。



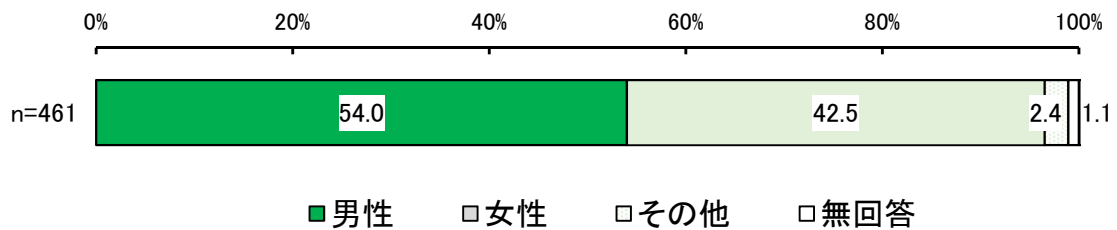
※R4年度今回調査の新選択肢
(全問)

Ⅲ 回答者の属性

Ⅰ あなた自身のことについて

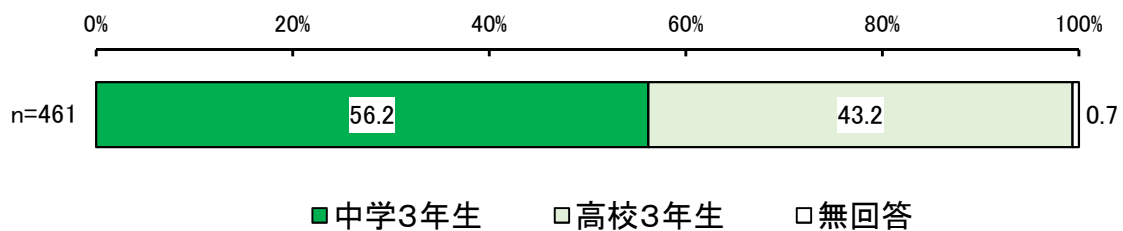
(1) あなたの性別は

回答者の性別は、「男性」が54.0%、「女性」が42.5%、「その他」が2.4%となっています。



(2) あなたの学年は

回答者の学年は、「中学3年生」が56.2%、「高校3年生」が43.2%となっています。



(3) あなたのお住いの地域は

居住地域をみると、「旧宇和島市地域」が59.4%で最も多く、次いで「旧津島町地域」(11.3%)、「旧三間町地域」(9.8%)、「その他」(9.3%)、「旧吉田町地域」(8.9%)、となっています。

